

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」57号 H29/2/3

「特定非営利活動法人ソルト・パヤタス」活動講演会

ALT のマリ先生の勤務校だった小学校はパヤタス地区にあります。その小学校から 4km ほどのところにゴミの山「スモーキーマウンテン」があります。今回のレイテ訪問の帰り、マニラに 1 日滞在しこの小学校やその山を見学に行くことになりました。



2 月 1 日（水）17 時～19 時、そのパヤタス地区での支援活動をされている「NPO ソルト・パヤタス」から講師の井上さんをお招きし、フィリピンでの活動について講演していただきました。ソルト・パヤタスは日本では福岡に拠点を置いて 20 年にわたってフィリピンの支援を続けている団体です。

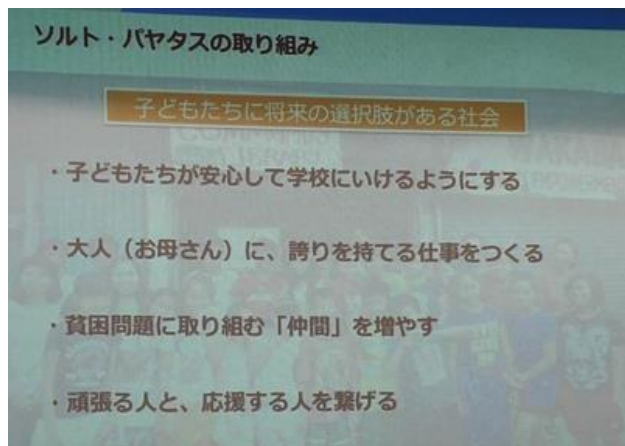
フィリピンではごみを焼却することが法律で禁止されており、そのためフィリピンで出たゴミは貯めていくしか仕方がないのが現状。その結果パヤタス地区にゴミの山を作り、貧困層の人たちがそのゴミ山からお金になるカンやペットボトルなどのゴミを拾いだして売るとい生活をしている。しかし 1 日に 12 時間以上働いても 200 円から 300 円ほどの稼ぎにしかならず、子供を学校に行かせることができない。小学校～中学校は日本と同様無料であるが、生活のために子供を働かせるしかない家庭や、家庭環境や住宅環境が悪いため子供が家で勉強することができず、学校に入学したとしても中学まで卒業で



きるのは半分程度となってしまふ。そこでソルト・パヤタスは寄付を集め、図書館を作ったり、勉強する子供を支援する活動をしている。

貯めるしかないフィリピンのゴミは積み上げていくしか今のところ方法がなく、ゴミの増加によりゴミの山が高く広くなり、その近くに住んでいる人たちの家を押つぶしてしまう事故が発生し、多くの人が犠牲となった。この事故をきっかけにゴミの山の整備が進み、一定の高さまでしかゴミを積み上げられないなどの処置がとられているが、その分ゴミ山の範囲が広がり、すぐ横に住む人たちは立ち退き

を強制されるなどの新たな問題が出てきている。



お金がないためにゴミ山のすぐ横の不衛生で危険な場所、川が氾濫したらすぐに流されてしまうような川沿いなどに住み続けるしかない貧しい人たちは多く、貧困から抜け出す術も持たず、変わらずゴミを集めるしかない状況にある。この状態を少しずつでも変えていくため、まず多くの人にこの状況を知ってもらうことが重要である。

小さな子供までが家計のために不衛生で危険なゴミの山での仕事を余儀なくされており、学校に行きたくても行けない状況が続いているのは、親にちゃんとした仕事がないのも原因であるため、親が安定した収入を得られる仕事を供給することも支援の一つとしている。



生徒たちの感想

1. 今回の講演を聞いて、とても良かったと感じたことはなんですか？

- ・動画やグラフで説明してもらえてよりイメージしやすくて分かりやすかった
- ・知らないことだらけだった
- ・ボランティアにすごく興味があるので更に参加してみたいと思った
- ・フィリピンに行く前に考える良いきっかけになった
- ・日本はとても恵まれているのだと知った。
- ・普段考える機会がないことについて話が聞けたのでよかった
- ・フィリピンは法律でゴミを燃やすことが禁止されていることにびっくりした
- ・平凡に過ごしていることだけでも幸せなんだと改めて感じることができた

2. 今回の講演を聞いて学んだこと、今後の GGH の活動に活かせること、自分がやってみたいことはなんですか？

- ・NPO、教育などの支援
- ・貧困と教育について知りたい
- ・フィリピンで感じたことを日本で伝えていくのが大切。フィリピンでの活動よりも日本や支援できる国での活動ができる
- ・国際関係などについて学んでみたいので今回知った事で疑問に思ったことを自分で調べてみたい。
- ・もっと世界を知りたい
- ・高校生の自分が出来ることを考えたい
- ・どのような支援をするかの前にまず知ることが大切だ
- ・「知る」から「支える側」へ
- ・講演を聞いて無力感を感じたがフォーラムなどでフィリピンの現状をもっと知ってもらうように広めることはできる
- ・防災についての知識を教えたいという意欲が出た
- ・教育がまともに受けられないことに対して支援出来たらいいと思う
- ・自分たちの活動が貧しい地域に生きる一人一人の生活にリンクしていくよう努めたい
- ・勉強道具の配布や募金などできることがあればやりたい。

3. 今回の講演を聞いて、さらに問題と感じた事、疑問に思ったこと、解決したいと思ったことはどんなことですか？

- ・ごみの処理について
- ・仕事と学校の両立
- ・負のスパイラルから脱出するには多くの国の協力やフィリピン自体の環境改善から始めなくてはいい。フィリピンで新たな仕事や産業を見つけることができるといい
- ・自分たちに何ができるかを考えたい
- ・フィリピンは焼却炉が作ることができる十分は予算がないほど貧しいのか
- ・どのような国際機関がフィリピンへ支援を行っているのか
- ・フィリピンの子どもたちはどうなれば幸せになれるのか
- ・何が原因で何から解決していくべきなのか問題が山積みだと思った。

- ・世界の貧困や差別問題
- ・世界には多くの子どもが貧困状態にいることをわかった上で出来ることをやりたいし、今の生活に感謝すべきだとわかった
- ・自然に悪影響が出ないゴミ焼却の技術を日本が教える活動を行うとかできたらよい
- ・フィリピンの法律や制度を思い切り変える
- ・「自分に何ができるのか？」この根源的な問いに対するヒントを少しでもつかみたい

4. 感想、気づいた事なんでも

- ・自分は全然世界を知らないと感じた
- ・子供たちが将来の選択ができるように
- ・思っていたよりも貧困の格差が大きい国であると知った
- ・病院には行かずに祈り（シャーマン）などで治療するなどの考え方があることを知った
- ・自分をもっと広い視野を持って勉強すべきだと思った。自分が出来ることを皆で考える。
- ・将来助けることができる活動に関わりたい
- ・働きながら学校に行くフィリピンの子どもの映像を見て、1日1日を価値あるものにしたいと思った。
- ・スモーキーマウンテンに行ったときに自分が何をすべきかを考える
- ・将来のことやこれからのことを深く考えるきっかけになった
- ・ごみ山をなくしてもそこで働いていた人たちが失業するという問題が発生すること
- ・日本は水や電気があり豊かな国だが世界には子供たちの将来が閉ざされている国もあるということを知り、自分の今の暮らしに感謝して、世界の色々な人ことや問題について理解を深めたい。
- ・自分の生活が豊かでありがたいことを実感した
- ・映像にでてきた男の子が「勉強をやりなさい」と母が励ましてくれたと言っていたのすごいいった。
- ・フィリピン行きの募集をする前にできれば聞きたかった
- ・今の生活を当たり前だと思わないようにしたい。感謝の気持ちを持つ
- ・日本は恵まれていて幸せな分、海外の様々な問題に疎いので知ったほうがいい
- ・「世界を鋭い目で見つめる力」をつけていくために語学政治経済など基盤となる要素を体得していく高校3年間にしていきたい
- ・日本のことだけしか考えていないと海外の事情を把握できないのもっと海外に目を向けることが大事
- ・すごく分かりやすくフィリピンの厳しい現状が知ることができ、自分たちに関係ないと思わず支援していきたい
- ・今の生活を当たり前だと思っはいけないし、一つ一つのものを大切に使ってリサイクルにもたくさん協力しようと思った
- ・自分のことだけでなく他人のことを考える力があってこそ幸せを感じられるのではないかと思った。

まとめ

生徒たちは、食い入るように話を聞いていたし、非常に活発に質問をしていました。関心の高さがうかがえました。

先日、神戸市立葺合高校の SGH 中間報告会に視察に行きました。葺合もパヤタスへ訪問するそう
で、井上さんが来校され、講演をされたようでした。学校でトイレが汚いことを改善したいというプ
レゼンがあったり、手作り石鹼を配るプロジェクトが立ち上がったりと、いろいろな報告がありまし
た。

本校も、今回の井上さんのお話が生徒の心に何かを芽生えさせ、次の探究に繋がればと期待してい
ます。

防災から、地域防災へと話が進みました。また、名城大附属高校での文化の違いについて考えるに
つれ、防災、地域、文化、と関心が進んでいます。フィリピンとの交流が迫り、地域防災や文化的な
背景による防災意識の違いに目が向いているところです。貧困や経済的な背景がもたらす習慣や考え
方の違いが、どのように防災意識にも影響しているのか、また防災について、地域の機能がどう日本
と違うのか、その辺りが深まるフィリピン訪問になりそうです。

1 年生は、P F A をレイテ高校近辺の住民の方々と実施する計画です。